

暮らしを支え、魅力を伝える コミュニティビジネス

能登島地域づくり協議会会長 米田晴行

能登島の概要

- 石川県七尾市
- 七尾湾に浮かぶ島
- 面積 46.78 km²
- 周囲長 71.9 km
- 人口 2,608
- 世帯数 995
- 集落数 20
- 産業 農漁業・観光



能登島の暮らし



これまでの流れ① 設立～将来ビジョン策定

- H20年7月9日 能登島地域づくり協議会設立
(町会、社協、公民館、観光協会などが所属)
- H27年10月 コミュニティビジネスプロジェクト「のと島クラシカタ研究所」開始
- H28年3月 将来ビジョン・アクションプランを策定、既存体制の見直し(部会・会議・事業)



未来への誓い

能登島 将来ビジョン

すべての島民が郷土愛に満ち溢れ
島の恵みとともに
心豊かに暮らし続ける島

【のとじま物語 ～序章～】

能登島は七尾湾に囲まれ、海や山、田畑の豊かな食材にあふれ、人情味ある人々が暮らす島です。昭和57年の能登島大橋の開通により、半農半漁の島から観光客も訪れる島となり、地域内外の人々の交流が島の活力になっています。

しかし、時代の趨勢には逆らえず、島の人口は減少の一途をたどり、若者が島を出ていき、高齢者が増加し続けているのが現状です。また、平成16年の周辺市町村との合併後、行政機能が縮小していく状況にあります。

このままでは、近い将来、脈々と営まれてきた能登島の暮らしを維持することが困難になることが想像できます。そこで、島全体の知恵と力を結集し、島民が主体となって地域づくりに取り組んで行くことを決意しました。

能登島地域づくり協議会は、能登島のすべての島民が自然の恵みとともに心豊かに暮らす“のとじま暮らし”をいつまでも満喫し続けるために、島の暮らしに誇りを持ち、「島の恵みを味わい続ける」「島民の絆を深める」「のとじま暮らしを自慢する」ことに取り組みます。

そして、先人達から受け継いできた“のとじま暮らし”を子どもたち・孫たちに引き継いでいきます。

能登島の新たな物語は、序章を書き終えたばかりです。

この物語は、島民すべてが主人公となり、山あり谷あり、笑いあり涙ありの想像もできない展開になるかも知れません。ただ、子どもたち・孫たちが大人になって読み返した際に、感謝される物語を紡いでいくことは、ここにお約束いたします。 2016年3月

能登島地域づくり協議会

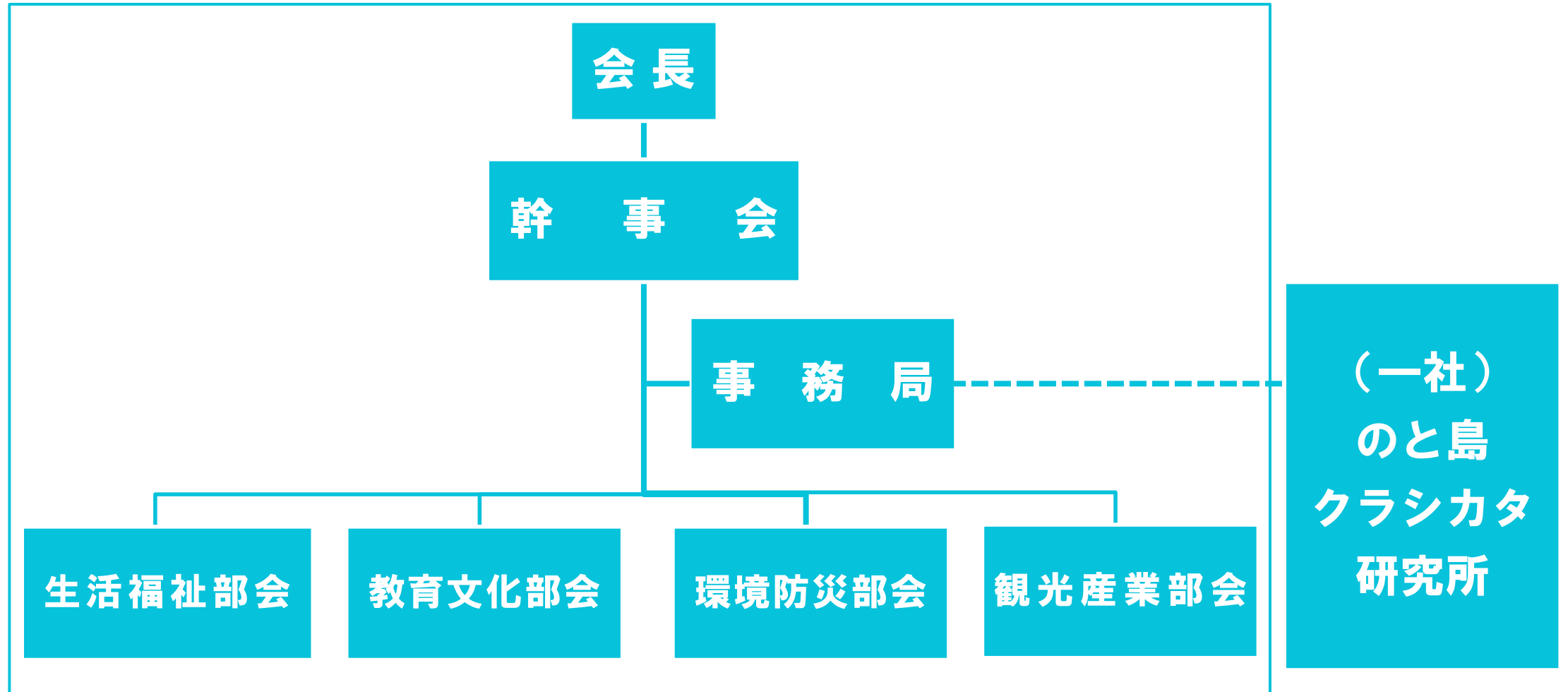
☎ 0767-84-1110

<http://notojima-chiiki.com/>

これまでの流れ② コミセン化～組織体制づくり

- H28年4月 コミュニティセンター化
(協議会・公民館・地区社会福祉協議会の事務局が集結)
- H31年3月 公民館が協議会組織へ一本化(市内全地区)
- R元年12月 能登島地区社協を協議会へ一本化
- R元年6月 「一般社団法人のと島クラシカタ研究所」設立
- R2年4月 コミセン指定管理・コミセン職員の直接雇用化

能登島地域づくり協議会 組織図



能登島地域づくり協議会の事業内容

公益事業（地域の一体感醸成）

- 地域イベント運営：ロードレース、ふれあいまつり、運動会
- 各部会事業

収益事業（地域内の経済循環・自主財源確保）

- コミュニティビジネス事業（一社）のと島クラシカタ研究所
- コミュニティセンター指定管理事業

公益事業

コミュニティの活性化：住民同士の一体感の醸成

地域のイベント 能登島ロードレース



地域のイベント わいわい能登島ふれあいまつり



教育文化部会 能登島こども会議



生活福部会 買い物支援・移動販売カレンダー

令和2年7月7日～

のとしま移動販売カレンダー

能登島地域づくり協議会では、民間事業者と協力して地域の買い物支援を行っています。掲載依頼やご意見・ご要望もお待ちしております。

協力事業者：おとどけショップ瀬戸・まんぶく丸

火曜日

ビハラの里 13:00 ⇒ 曲 13:20 ⇒ 野崎(戸別訪問) 13:40
⇒ 長崎 14:10 ⇒ ハケ崎 14:30 ※ビハラ・野崎以外は集会所前
【販売者：おとどけショップ瀬戸】

*

木曜日

ビハラの里 13:00 ⇒ 野崎(戸別訪問) 13:40 ⇒ ハケ崎 14:20
⇒ 二六 14:40 ⇒ 日出ヶ島 15:00 ※ビハラ・野崎以外は集会所前
【販売者：おとどけショップ瀬戸】

半浦(西湾荘) 10:15 ※時間変更 ⇒ 半浦(集会所) 10:30
⇒ 須管(第1・3週:集会所 第2・4週:原田邸前) 11:00 ⇒ 佐波(戸別訪問) 11:30 ⇒ 百万石(戸別訪問) 12:00 ⇒ 関(集会所) 13:00
【販売者：まんぶく丸(橋本)】

土曜日

*

南 12:30 ⇒ 無関(漁港前) 13:00 ⇒ 関 13:20
⇒ 百万石(瀬成農園前) 13:50 ⇒ 久木田尻(橋の前) 14:10
⇒ 通(漁港前) 14:30 【販売者：おとどけショップ瀬戸】

※ルートや時間は変更の可能性があります。その場合は、この紙面や能登島新聞でお知らせします。

お問い合わせ 能登島地域づくり協議会(能登島コミセン) 担当 原田・菊地 TEL 84-1110



環境防災部会 のとじま豊稔会

- 島内の20集落の生産組合が所属
- 中山間地直接支払制度の「集落連携」事業を活用
- 農地利用について情報共有し、集落間の連携促進
- 能登島GISの活用



地域資源調査 GISの活用

能登島版GIS (地理情報システム)

- 様々な情報を地図上で表示して分析できる
- 農地・福祉・地域資源などの情報を調査し集約



向田町の農地利用図

収益事業

コミュニティビジネス：地域での経済循環と自己資金の確保

収益事業（コミュニティビジネス）の目的

補助金依存からの脱却
自由度の高い運営



地域での経済効果（地域への収益還元）
人件費の確保（生業の創出）



責任範囲の明確化が必要
＝事業部門の法人化

能登島の強み

- **豊富な観光資源（水族館、道の駅、キャンプ場、海水浴場、民宿）**
- **世界農業遺産「能登の里山里海」の豊かな自然と暮らし**

⇒ **従来の観光客は主要な観光施設を巡るのみ。**

島の自然や暮らしをもっと知って、体験して欲しい！

(一社) のと島クラシカタ研究所の事業内容

旅行業

- 「能登島こどもキャンプ」など観光商品を企画販売

飲食業

- 八ヶ崎海水浴場海の家をリノベーションしたカフェ「まあそい Café」

物販・商品開発

- 土産物をリパッケージした「まあそいおみやげ」シリーズ
- OEM商品「のとじまバトンケーキ」

情報発信

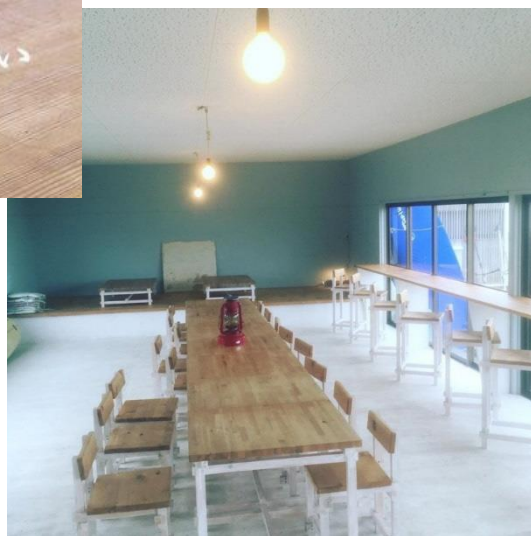
- ホームページ「能登島まあそい」
- SNS運用
- メディア掲載

「能登島まあそい」ブランド



- **まあそい＝豊かな、良く稔った、大きな**
- **能登島のまあそい風景、食文化、生活文化を再確認し、未来へ伝えていきたいという思いを形に**
- **シンボルカラーは稲の実りを表す「黄金色」**

まあそいCafé（八ヶ崎海水浴場海の家）



海の家をリノベーションしたカフェ

“まあそいおみやげ” シリーズ

- 道の駅のとじまにて販売中
- 島でしか買えないお土産を
- 米と、米にまつわる商品群
- 能登島長崎の海塩・おかず
味噌の瓶詰め・和紅茶パッ
ク・お米などが好調



商品開発（OEM）

- 清酒「能登島」製造過程でできる米粉を使ったお土産「のどじまバトンケーキ」



旅行業・体験プログラム開発

- **旅行業登録を行い、着地型観光の受け入れ態勢が整う**
- **「能登島コックエッグプロジェクト」始動**
 - **豊かな食材を生かして、調理師学校の研修を受け入れる**
 - **将来のコックに現場での体験を通じて地域を知ってもらう**

今後の課題

- 地域の担い手育成
- 部会運営の活性化
- コミュニティビジネス育成

